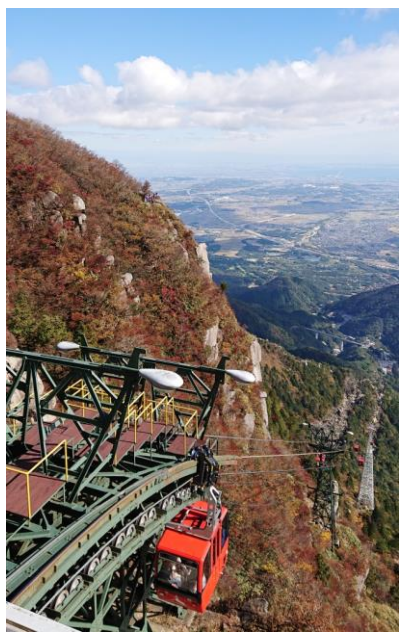


「家がいいね」 第174号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

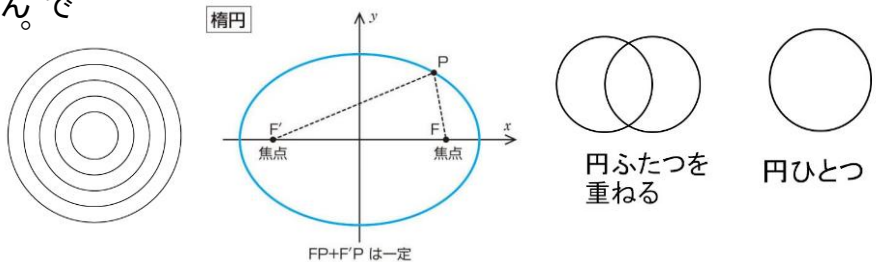
2018.11.5



月が替わって、今年も御在所へ行ってみました。良い日和、それも午前なので景観は素晴らしい。この山上で暑い夏を遣り過ごしたトンボはどうだったかなと、今年を振り返ってみました。なぜか夏の蝉も蛙も秋の虫も音の印象が残っていません。生き物はどうしたのでしょうか。「沈黙の春」にながらること無ければいいのですが。生物にとつての生き難さが、地球規模でないことを祈ります。

縁↓円↓関係への空想

一人のヒトを正円とします。周りは、自分ではない世界です。縁あって二つの円が重なる。共有部分が生じ自分の一部にもなります。世界の広がりを感じる不思議な空間かもしれません。二つの円には中心があります、それを焦点にして1本の紐を掛けて鉛筆で図を描くと楕円ができます。当然ですが楕円の何処でも焦点への距離の和は一定です。これが次世代になるとと思います。円も楕円も人間関係のように、成長していくとすると出発の円や楕円より大きくなるのが自然ですね。しかし自分が同心の最大円に位置して他者をその内に取り込もうとする場合、それは理不尽であり、支配というしかありません。



カルテからのつぶやき 4

無念さが伝わってくるのは、家族や生活の柱になっていた人自身が病に倒れた時です。一家の大黒柱が実質的に主婦の場合は、在宅に療養の場が移された時に「皆の面倒を普段のように見なければ」



「その私がなぜ？」と嘆かれるのは、身体や心理的な困苦以上の、魂の苦しみの表現なのでしょう。誰も替わることが出来ない悩みに対して、気休めのようなことは言えません。その方自身の嘆きを聴くことに専念するしかできないと感じます。

悲しみと嘆きは、家族も共有していますので、在宅ホスピスケアは、今の痛みや症状を緩和するだけではなく、この先に予測される感情の嵐にも備える役割を持ちます。家族が看取りを成就したとしても、失ったものが戻ることはありません。喪失を分かち合う場をグリーンフケア「おあしす」
として提供しています(毎月第4木曜午後、津市)。参加者は夫を失った女性が大半、という現実です。私としては、妻や母を失った悲嘆はさらに大きいと考えているのですが、日々どのように過ごしておられるか、気がかりが続いています。

休診日のお知らせ

12月1日(土) 研究会のため臨時休診
年末年始の休業期間
12月27日(木) ～ 1月3日(木)
8日間と長い期間になりますので、早めの相談をお願い申し上げます。
またこの期間も在宅患者さんには対応いたします。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
ホームページ <http://isezaitaku.com>

↑バックナンバーはここで閲覧可